

次号予告

特集	養護・訓練と理学療法・作業療法	
	養護・訓練とは何か……………筑波大学	高橋 純
	養護・訓練で使われる技法	
	(1) 肢体不自由教育の場合……………筑波大学	中司 利一
	(2) 精薄教育の場合……………国立特殊教育研究所	小口 勝美
	(3) 養護・訓練へのPT・OT技法の応用……………横浜市大	大川 嗣雄・他
	養護・訓練に期待する……………埼玉県生活福祉部	五味 重春
	資料 紙上討論……………小池文英・成瀬悟策	
とびら	トランスファーと介助……………大阪府立身体障害センター	花岡 俊行
講座	作業療法概論3 人間における活動と その治療的利用……………府中リハビリ専門学校	杉原 素子
プロGRESS	義肢・装具支給体系上の問題……………兵庫リハビリセンター	澤村 誠志
	精神薄弱療育の諸問題(3) 教育の義務制……………弘済学園	中村 健二
	リハビリテーション・インフォメーション〈栃木県〉……………自治医大	福田恵美子・他
	〈徳島県〉……………徳島市民病院	上田 正信・他
養成校紹介	国立犀潟療養所付属リハビリ学院……………金子 翼・他	
資料	第15回 PT・OT 国家試験模範解答 (IV)	

編集後記

真夏を迎え、仕事に休暇にと思いいに過ぎされていると存じます。さて今月号は「理学療法・作業療法と電子工学」を特集に組みました。さながら時代最先端をゆくマイクロコンピュータ特集の感がします。

「リハビリテーションと電子工学」を労災義肢センターの土屋先生にお書き戴きましたが、平易にリハビリテーション界とエレクトロニクスの関連について網羅され、ややもすると電気嫌いになり勝ちな我々に尻をたたいて教えられているようです。九州芸術工科大学芸術工学部の古賀先生には、この1, 2年日本でも脚光を浴びている「環境制御工学」について、日本国内での動きを含めて広く紹介していただきました。6月号のCP能力開発の試みの内、兵庫リハビリテーションセンターで行っている「職業評価におけるマイクロコンピュータの応用例」については塩田先生が詳しく書かれて興味深い。また同センター、山下・奥両先生による「マイクロコンピュータの歩行分析への応用例」の論文の中では、基礎的なデータから考察を進め、科学

的・客観的な評価分析ならびに記録にマイクロコンピュータ活用の努力が見られます。北海道立肢体不自由者訓練センターの丸谷先生・他は「ひずみゲージを利用した力の検出」の稿の中でCPの職能評価として一目的動作の制御筋出力の測定法として、ひずみ計をセンサーにしてマイクロコンピュータ(オフィスコンピュータ)で処理して測定を行い考察を加えておられます。

講座は作業療法にバトンタッチされ2回目、寺山先生が医療の濫觴まで溯り歴史的背景の考察を述べておられます。

投稿原稿が2本、反省させられた症例、国家試験模範解答等々と盛り沢山の8月号となりましたが、更に編集委員として新人の投稿を希望する次第です。今月号の特集は、PT・OTにとって好き嫌いの多いテーマとなったきらいもあると思われますが、読者諸兄の身の廻りに知らず知らず入り込んでくる技術革新の波は、我々リハビリ界にも例外でないことを知らされる号であってほしいと思います。(大喜多 潤)

＜編集顧問＞

天 児 民 和
九州労災病院院長
五 味 重 春
埼玉県生活福祉部
砂 原 茂 一
国立療養所東京病院名誉院長
津 山 直 一
東京大学教授・整形外科
水 野 祥太郎
川崎リハビリ学院院长
(五十音順、以下同じ)

＜編集委員＞

上 田 敏
東大リハビリ部
荻 島 秀 男
リハビリテーションペ
イン(痛み)クリニック
くわらび診療所
大喜多 潤
兵庫県リハビリセンター
鈴木 明 子
(北海道庁)
寺 山 久美子
都心身障害者センター
富 岡 詔 子
山梨日下部病院
奈 良 勲
金沢大学医療技術短大
福 屋 靖 子
筑波大学
松 村 秩
都養育院リハビリ部

＜編集同人＞

大 橋 博
大 丸 幸
金 子 翼
鎌 倉 矩 子
紀 伊 克 昌
駒 沢 治 夫
佐 藤 章
佐 藤 馨
嶋 田 智 明
高 橋 正 明
武 富 由 雄
谷 岡 淳
中 屋 久 長
藤 沢 しげ子
松 本 妙 子
丸 谷 隆 明
矢 谷 令 子
山 下 隆 昭
和 才 嘉 昭
(担当 細田・西塚)